



「サプライチェーンのCO2排出量」 算定と活用について

2015年1月22日(東京)
サプライチェーン排出量算定 テーマ別セミナー
サプライチェーン連携促進セミナー

株式会社 ローソン
片山 裕司



会社概要



会社概要

2014年2月28日現在

< P 25 >

会社概要

2014年2月28日現在／連結(代表者については2014年5月1日現在)

社名	株式会社ローソン
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎イーストタワー
代表者	代表取締役 社長 玉塚 元一
設立	1975年4月15日
資本金	585億664万4千円
社員数	6,336人
事業内容	コンビニエンスストア「ローソン」「ナチュラルローソン」「ローソンスストア100」及び「ローソンマート」のフランチャイズチェーン展開
全店舗売上高	1兆9,454億円
総店舗数	11,606店(国内)

注：総店舗数は、(株)ローソン、(株)ローソンマート、(株)ローソン沖縄、(株)ローソン南九州、(株)ローソン熊本の運営する店舗数の合計です。



2014年7月31日現在

< P 26 >

国内店舗情報

2014年7月31日現在

合計

11,922店舖

※1(株)ローソン南九州が運営する店舗数

※2 (株)ローソン沖縄が運営する店舗数

●中部地方1,409店舖

富山	184	静岡	岡	213
石川	101	愛知	知	553
福井	105	岐阜	阜	146
		三	重	107

●中国地方647店舗

鳥取	108	岡山	137
島根	112	広島	172
		山口	118

●九州・沖縄地方

1,359店舖

福岡	425
佐賀	65
長崎	103
熊本	136
大分	161
宮崎	100
鹿児島	200 ⁼¹
沖縄	169 ⁼²

●北海道地方

614店舖

●東北地方

942 店舖

青森	204
岩手	163
宮城	221
秋田	182
山形	73
福島	99

● 関東・甲信越地方

4,105店舖

茨城	143	新潟	130
栃木	133	山梨	107
群馬	89	長野	149
埼玉	492		
千葉	458		
東京	1,570		
神奈川	834		

●近畿地方

2,364店舖

滋賀	152
京都	325
大阪	1,014
兵庫	620
奈良	132
和歌山	121

● 四国地方

482 店舖

徳島	121
香川	118
愛媛	176
高知	67



海外及びグループ企業

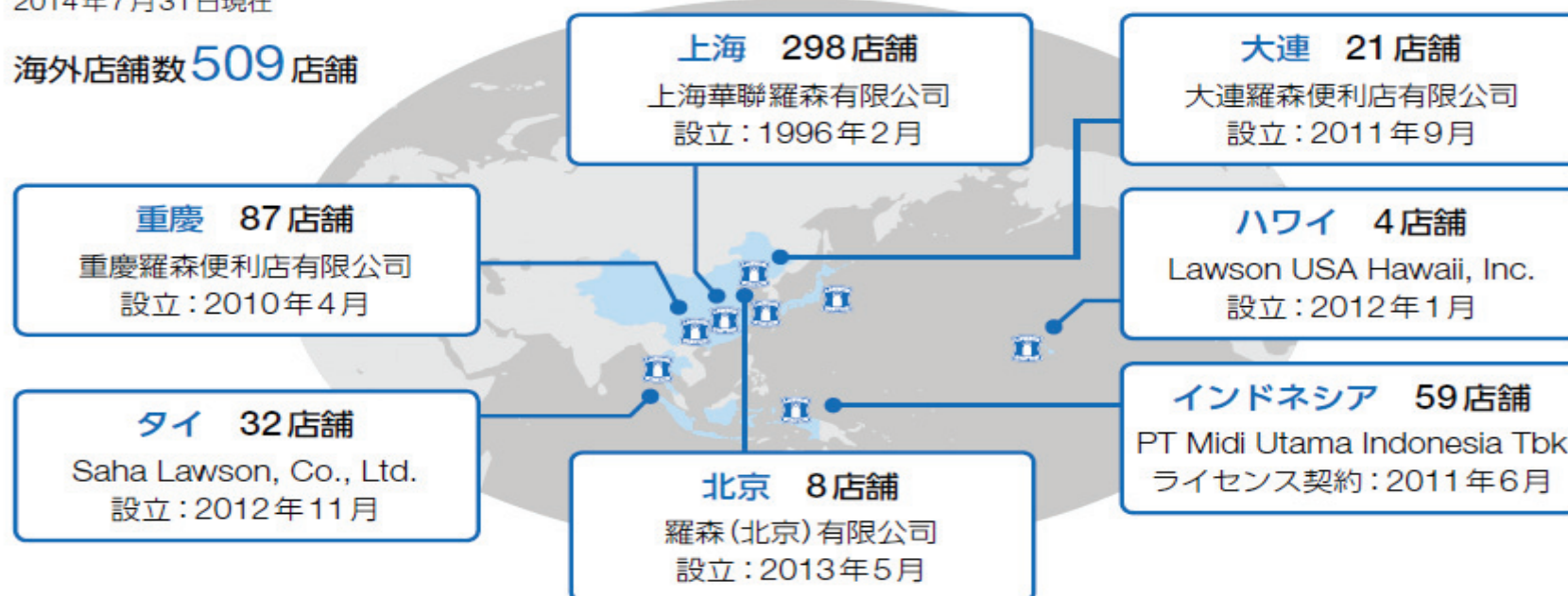
2014年7月31日現在

< P 25 >

海外展開

2014年7月31日現在

海外店舗数 **509** 店舗



グループ企業情報

2014年2月28日現在

主な連結子会社

- (株) ローソンマート
- (株) ローソンHMVエンタテイメント
- (株) ローソン・エイティエム・ネットワークス
- (株) ベストプラクティス
- (株) SCI

- 上海華聯羅森有限公司
- 重慶羅森便利店有限公司
- 大連羅森便利店有限公司
- Saha Lawson, Co., Ltd.
- Lawson Asia Pacific Holdings Pte. Ltd.

主な持分法適用 関連会社

- (株) ローソン沖縄

- PT Midi Utama Indonesia Tbk



ローソングループの 「企業理念」と「環境方針」



**私たちは
“みんなと暮らすマチ”を
幸せにします。**



ローソンは、
マチ（地域）のインフラとして、
本業を通じて“社会課題を解決
（新たな価値を創造）”し、
持続可能な社会を実現します。



基本理念

私たちローソングループは、
豊かな地球の恵みを次世代へ引き継ぐため、
常に環境に配慮した事業活動を行うとともに、
地域社会との共生と持続可能な発展に向けて、
積極的に行動します。

方 針

1. **低炭素社会の構築に向けて**
2. **商品・サービスなどの開発における配慮**
3. **社会貢献活動への積極的な参画**
4. **継続的な改善の実施**
5. **法令等の遵守**
6. **コミュニケーションの推進**



1. 低炭素社会の構築に向けて

地球温暖化防止に向けて、事業活動における「省エネルギー」「省資源」「廃棄物削減」に取り組めます。

2. 商品・サービスなどの開発における配慮

原材料の調達から販売、廃棄までの全ての段階において、自然環境や地域社会への影響を十分に配慮します。



サプライチェーンへの関与



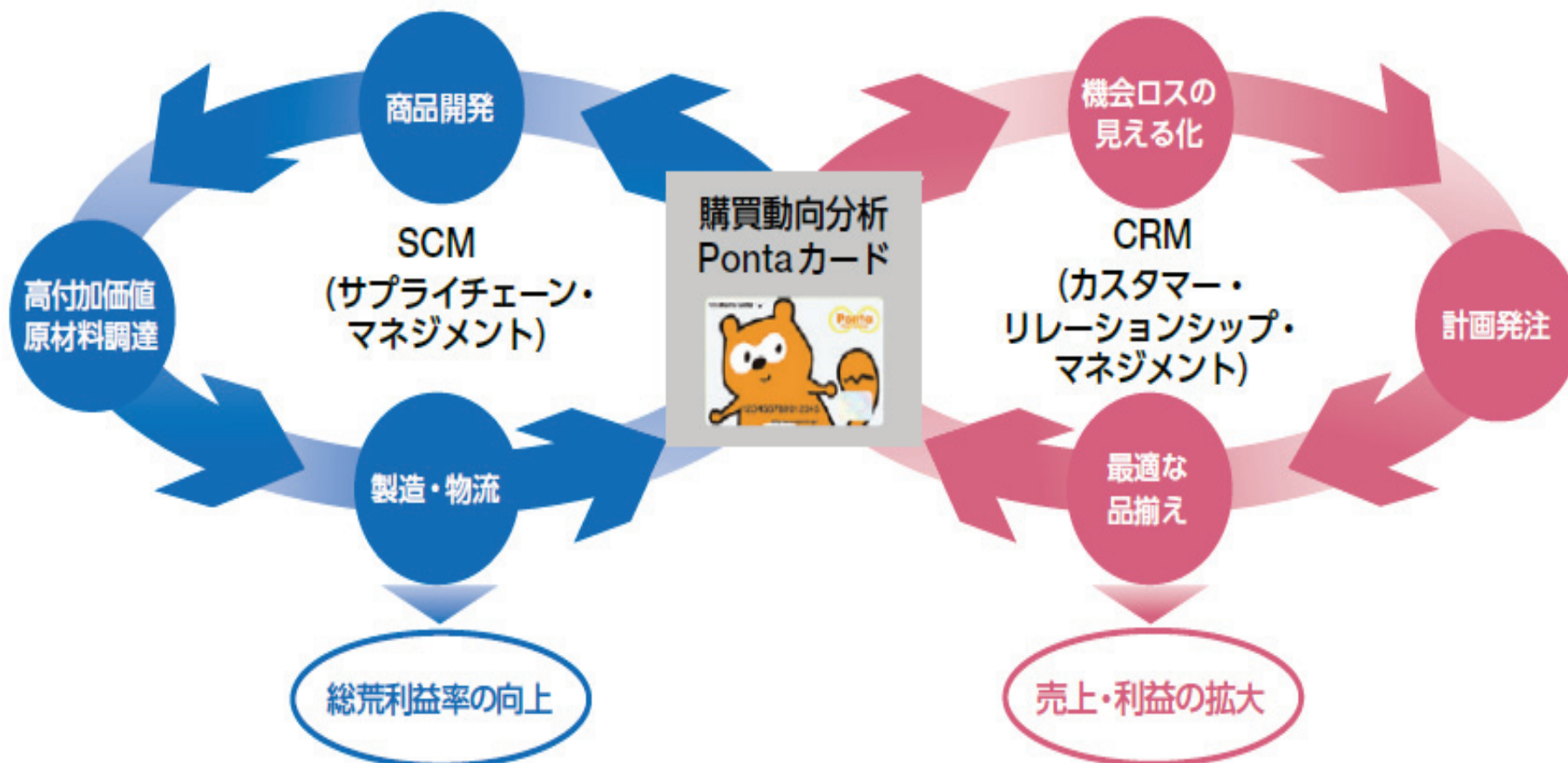
企業理念の実現に向けて、
“高付加価値”の商品を製造し、
お客様の身近なマチで販売する
「小商圈型製造小売業」の確立を
目指しています。



サプライチェーン全ての工程への
関与を高め、商品開発において
無駄なく食材を利用したり効率的
な配送を行うなど、サプライチェーン
の付加価値向上と、
“社会・環境への配慮” に努めて
います。

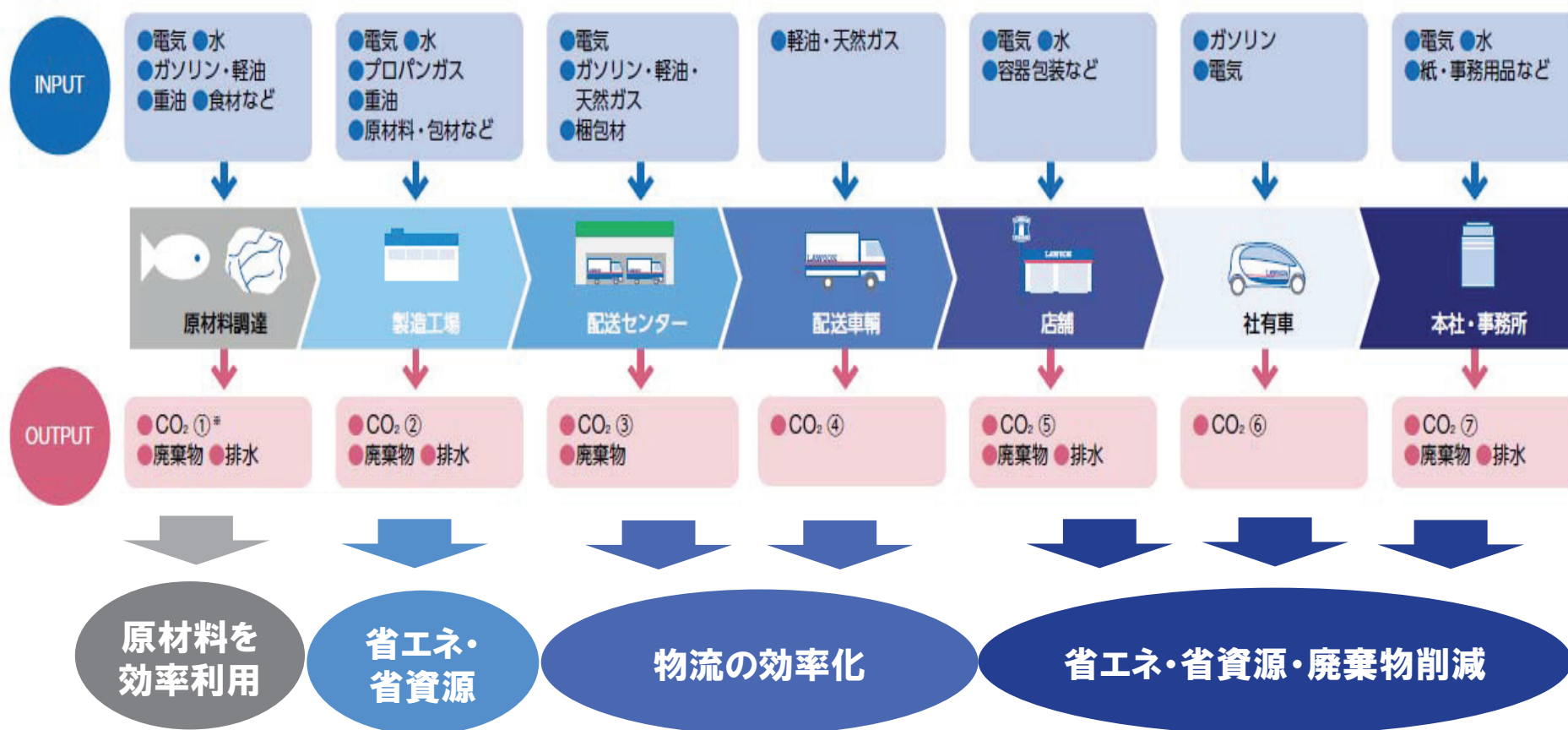


会員データを基に お客さまを起点にした
“高付加価値”の商品開発を行う





サプライチェーン全体のCO2排出量を把握し 削減項目を設定し取り組む





サプライチェーンCO2排出量の 算定目的と結果



サプライチェーンのCO2排出量算定の目的

1. 「小商圏型製造小売業」として、自社だけでなくサプライチェーン全体のCO2排出量を算定することで、**事業全体での地球温暖化への影響を把握**する。
2. ステークホルダーからの情報開示要請に応えるため、「統合報告書」「環境報告書」やホームページで情報を公開。また、CDPのアンケートに対応する等、**当社の事業全体における影響と取り組みへの理解を図る**。
3. カーボンオフセットへの取組みの一環として、特定商品のLCA全体から排出されるCO2量を算定し、お客さまへ情報を開示。さらにその**排出量の全部(または一部)をオフセットすることで、商品に付加価値を与え、販売促進につなげる**。



サプライチェーンのCO2排出量算定の結果

< P 14 >

2013年度の排出量合計は 4,342千トン。

「Scope3 カテゴリ1 及び 14」が全体の約95%を占める。

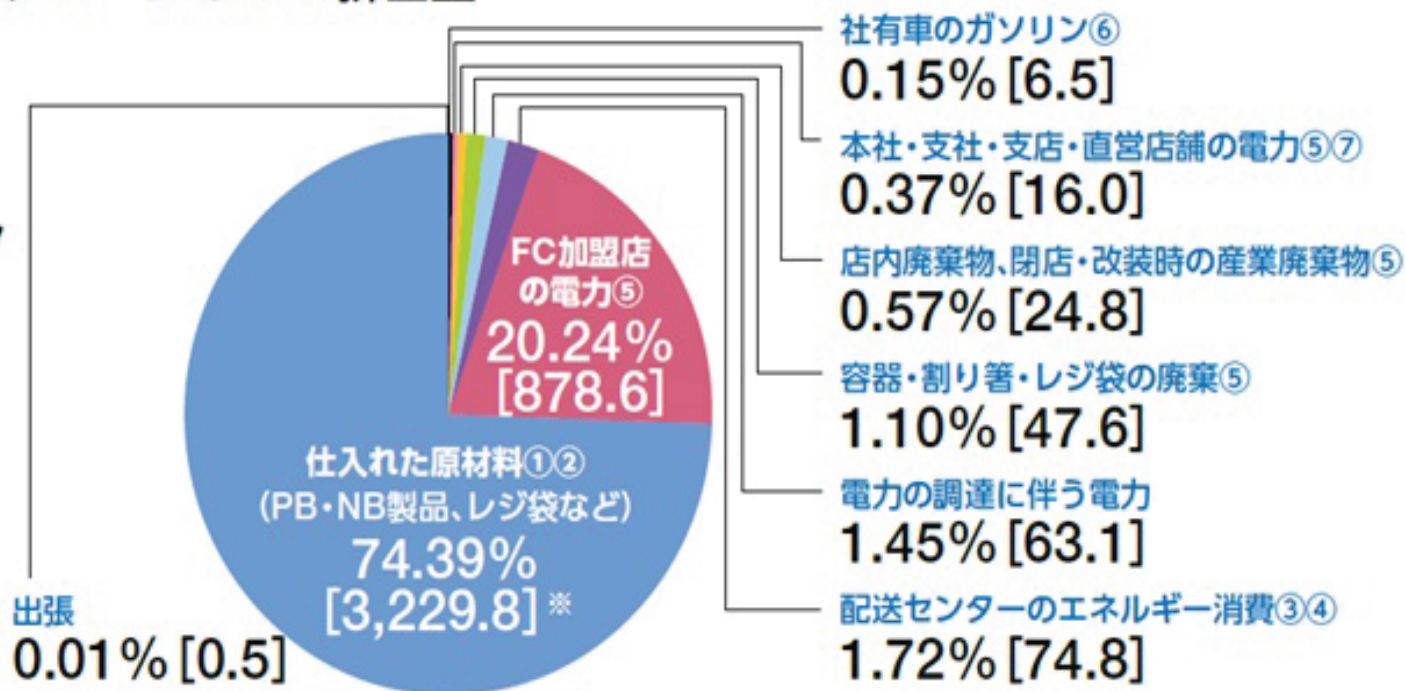
2013年度サプライチェーンのCO₂排出量

合計CO₂排出量

約4,342千トン

※ [] 内はCO₂排出量
(単位:千トン)

サプライチェーンを通じた、
温室効果ガス排出量の算定
方法基本ガイドラインに関
する業種別解説(小売業)
Ver.1.0に基づき算定





サプライチェーンのCO2排出量算定の方法

カテゴリ		算定方法	
		活動量	原単位
Scope 1		●社有車の燃料使用量	●エネルギー量あたり原単位
Scope 2		●電気使用量	●エネルギー量あたり原単位
	カテゴリ1「購入した製品・サービス」	●原材料・資材の調達量	●金額あたり原単位
	カテゴリ2「資本財」		
	カテゴリ3「Scope 1, 2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	●電気・蒸気のエネルギー使用	●エネルギー量あたり原単位
	カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	●各配送センターのエネルギー	●エネルギー量あたり原単位
	カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	●廃棄物種類別排出量	●廃棄物種類別原単位
	カテゴリ6「出張」	●従業員数	●従業員数あたり原単位
Scope 3	カテゴリ7「雇用者の通勤」		
	カテゴリ8「リース資産（上流）」		
	カテゴリ9「輸送、配送（下流）」		
	カテゴリ10「販売した製品の加工」		
	カテゴリ11「販売した製品の使用」		
	カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	●廃棄物種類別排出量	●廃棄物種類別原単位
	カテゴリ13「リース資産（下流）」		
	カテゴリ14「フランチャイズ」	●電気使用量	●電気使用量あたり原単位
	カテゴリ15「投資」		
	「その他」		



1. CO2削減に向けた取り組み

サプライチェーンのどの段階でどの程度のCO2が排出されているのかを把握し、削減に向けた取り組みを検討する。

→「Scope1」及び「Scope3 カテゴリー4」については、省エネ車の導入やお取引先である配送センターや配送車両等の省エネを推進していただいている

「Scope3 カテゴリー4」

「Scope1」

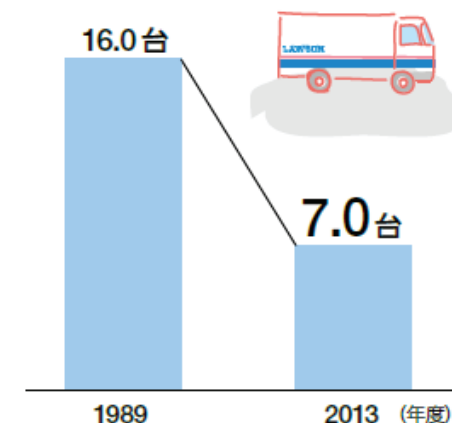


ハイブリッドカーの導入

効率配送/エコドライブ/
運行管理システム



1店舗1日当たりの配送車両
台数※





2. CO2削減に向けた取り組み

サプライチェーンのどの段階でどの程度のCO2が排出されているのかを把握し、削減に向けた取り組みを検討する。

→「Scope3 カテゴリー14」については、省エネ機器を導入し店舗のエネルギー消費量削減に取り組んでいる

「Scope3 カテゴリー14」

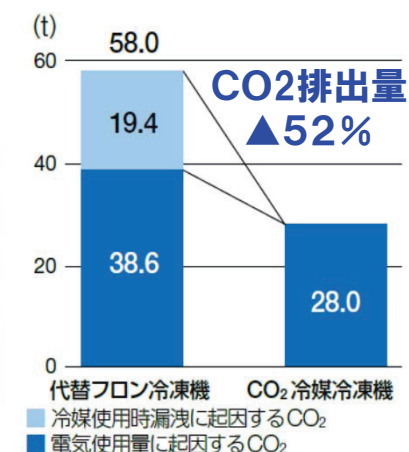


太陽光発電の導入

CO2冷媒機器の導入



CO₂冷媒のCO₂削減効果





ローソンのCO₂オフセット運動

< P 20 >

CO₂オフセット運動の仕組み





CO2排出量の算定結果の活用 ③

< P 20 >

3. カーボンオフセット商品の販売推進

→ MACHI café「ホットコーヒー」と「カフェラテ」のLCA全体のCO2排出量を算定し、その全量をオフセット。

■実施期間:2014年2月11日(火)~24日(月)

■実施店舗:全国のMACHI café 導入店 約7,000店

■オフセット量:1,463トン





サプライチェーンCO2排出量の 算定における課題



サプライチェーンの排出量算定における今後の課題

1. 「Scope3」の算定範囲

現在は限定されたカテゴリーでの算定となっている。
全体把握のため、**データベースの整備・構築**が必要。

2. 「Scope3 カテゴリー1」の算定方法

現在、排出量の約75%を占める「カテゴリー1」において、
金額ベースで大まかな原単位をあてはめる方法で算定を行っている。
より正確なCO2量を把握するためには、**重量ベースでの算定が必要**。

3. 排出量の評価

企業の成長(店の増加)により、全体の排出量は増加する。
削減策を適正に評価するためには、原単位による比較が必要。